

第3回スーパーグローバル大学創成支援事業(SGU)外部評価報告書の要旨 <2023年度総括評価(2024年3月開催)>

構想名「TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想：地球規模での健康レベル向上への挑戦」

評価カテゴリー	第1回 自己 評価 (2016)	第1回 外部 評価 (2016)	第2回 自己 評価 (2019)	第2回 外部 評価 (2019)	第3回 自己 評価 (2023)	第3回 外部 評価 (2023)	外部評価のコメント(一部抜粋) (特に注意すべき点、高く評価された点)
	I. 構想実現のための 詳細取組の推進	A	A	A	A	A	
II. 文部科学省より 指定された各大学 共通の成果指標に 対して本学が設定 した目標の達成 状況	B	B	B	B	B	B	<p>数値目標が達成できなかった項目のうち、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を直接受けたものの未達成はやむを得ないと判断する。これらの数値は今後回復するものと予想される。</p> <p>一方、外国人教員数、女性教員の割合、テニュアトラック対象者の数など、人事に関する項目については、本事業終了後も継続的に改革の努力が必要であろう。社会の持続可能な発展や日本の競争力維持のために、優秀な女性研究者の育成、若手研究者の研究環境改善は必須の要件であろう。日本を代表する研究教育機関として、他大学のモデルとなる人事システムの実現に努めてもらいたい。</p> <p>※2023年度12月時点で、数値目標が掲げられた18項目中、以下の9項目が未達成 ①教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合/②教職員に占める女性の比率/③日本人学生に占める留学経験者の割合/ ④大学間協定に基づく交流数/⑤外国語のみで卒業できるコースの数等/⑥学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組/ ⑦混住型学生宿舎の有無/⑧テニュアトラック制の導入/⑨事務職員の高度化への取組</p>
III. 申請時に各大学が 独自で設定した成果 指標の目標達成状況	B	B	S	S	B	A	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも、以下の4項目の目標設定に対して、様々な取組を展開し、数値がわずかに届かなかったものも含め、本事業開始前値よりも十分な成果があがっていると評価できる。</p> <p>①(学士課程)卒業生に占める海外経験者の割合<抜粋>医学科 【2013】33%→【2023】64%(目標値:50%) ②HSLP履修者数 【2013】20人→【2023】268人(目標値:258人) ③全大学院生に占める外国人留学生の割合 【2013】13%→【2023】23%(目標値:25%) ④グローバルヘルスリーダー養成コース(新設)履修者数 【2013】0人→【2023】20人(目標値:20人) ※外部評価委員会開催時(2024.3.2)に2024.3.31時点の数値が判明していないため、2023年度は2023.12.1時点の数値</p>
IV. 構想実現のための 体制構築	A	A	A	A	A	A	<p>教学のマネジメントを総合的に行う統合教育機構と、国際化推進をはかる統合国際機構が連携することで、大学全体の教育国際化を効率的に実現してきていると高く評価できる。</p> <p>この体制によってガバナンスが強化され、新型コロナウイルス感染症拡大時に、遠隔講義支援チームが迅速に編成されたこと、またさらにアクティブラーニングを促進する教育開発チームへと再編強化されたことも、体制整備として高く評価できる。こうした成果を、東京工業大学との大学統合後の新体制においても、十分に活かしていくことを期待したい。</p>
V. 国際的評価の向上に むけての取組の推進	B	A	A	B	B	B	<p>ランキングの後退は東京医科歯科大学独自の問題ではなく、日本全体の研究競争力の低下を反映しているのではないかと、世界的な認知度の低さについては、東京工業大学との大学統合によって、一定の改善がなされることが期待される。少子化や経済停滞という状況下で、優秀な研究者を広く海外から獲得すること、長期的展望のもとで次世代の教育を強化することが、競争力再生のために必要である。海外ネットワークの強化、教育の国際化という本事業の成果を、今後も継承発展させ将来ランキング向上に反映していくことを大いに期待したい。</p>
総評	—	A	—	A	—	A	<p>医療系大学であり日本の国家試験を全学生に受けさせるという制約があるにも関わらず、10年間の努力により本事業において着実な成果をあげたことはきわめて高く評価できる。新型コロナウイルス感染症の世界的大流行という非常時においても、迅速に対応策を講じ、オンライン受講などのデジタル技術を利用し、教育の国際化を推進し続けたことも高く評価したい。</p> <p>外部評価委員一同は、今後も継続的に本事業の成果が継承されていくために必要な「文化」(culture)と「財源」(finance)であるという意見で一致した。Health Sciences Leadership Programに参加した卒業生の中から、そのような意欲を示す人材をすでに一定数輩出していることは、国際的な「文化」が醸成され始めていることの証左であろう。一方、女性や外国籍の人材登用など、教員組織における国際化・多様化はまだ進んでいるとは言えない。国際的評価を上げるためにも、グローバル人材育成推進のためにも、長期的視野に立って、国際性・多様性に富んだ優秀な研究者・教育者を獲得する人事戦略が必要となろう。今後も財政基盤の強化をはかり、本事業の成果がさらに受け継がれて、発展していくことを期待している。</p> <p>総合的に見て、この10年間の取り組み成果は十分なものであったと評価する。この間の田中学長のリーダーシップと高田教授をはじめとするプロジェクト・チーム一同の努力に敬意を表したい。東京医科歯科大学と東京工業大学の大学統合が予定されているが、スケールメリットと人材の多様化の効果を最大化し、医療および科学技術分野でのグローバル・リーダー育成が今後も加速していくことを大いに期待している。</p>

<参考>

○外部評価委員（◎委員長）

No	氏名	所属・役職（2024.3.2 開催当時）
1	◎前沢 浩子	獨協大学外国語学部英語学科教授
2	Elizabeth Armstrong	Director, for Education Programs, Harvard Medical International
3	笠原 典之	Professor & Alvera L. Kan Endowed Chair, Depts. of Neurological Surgery & Radiation Oncology, University of California San Francisco (UCSF)
4	Joel T. Katz	Associate Professor (Medicine), Harvard Medical School
5	Han-Suk Kim	Professor, Department of Pediatrics, Seoul National University College of Medicine
6	宮坂 信之	東京医科歯科大学名誉教授、千葉大学医学部附属病院監査委員会委員長
7	大野 高裕	早稲田大学創造理工学部経営システム工学科教授
8	Suchit Poolthong	Thai representative of ASEAN Joint Coordinating Committee on Dental Practitioners (AJCCD)

○評価基準

S	特に優れた実績を上げた。
A	計画の達成度が 100%以上
B	計画の達成度が 70%以上 100%未満
C	計画の達成度が 70%未満
F	計画に対し、取組がきわめて不十分である。

○文科省 SGU 事後評価スケジュール（2024 年度）

（2024/3/21 現在）

4月～6月下旬	事後評価調書等の提出期間（※切必着）
7月下旬～9月下旬	書面評価
10月下旬～11月中旬	面接評価（大学統合後の予定）
11月～12月	現地調査（評価部会で必要とされたもの限り実施）
12月～1月中旬	評価結果（案）の決定
2月頃	評価結果（案）への意見申立期間（事業目的の達成は困難であると判断された場合のみ）
3月	評価結果の決定